

完全放牧で有機牛乳を生産、味を決めるのは自然の移ろいのみ

なかしべつ

株式会社養老牛山本牧場W・E・C(WILD EAST COMPANY)(中標津町)



【赤のラベル】

(冬期間)主に干し草を食んだ牛から搾られる牛乳はこってりと濃厚な味わい。

【緑のラベル】

(夏期間)主に放牧草を食んだ牛から搾られる牛乳はあっさりとした味わい。

WILD MILK (ワイルドミルク)養老牛放牧牛乳 (左)干し草の赤ラベル、(右)放牧草の緑ラベル

【組織等の概要】

- 会社名:株式会社養老牛山本牧場W.E.C
- 所在地:標津郡中標津町養老牛200-2
- 代表取締役:山本 照二
- 飼養頭数:34頭(うち搾乳牛23頭)
- 有機牧草面積:45ha
- 従業員数:8名(2022年8月現在)

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 東京のスーパーで12年間働き、物を仕入れて販売する仕事の中で、第一次産業に憧れを抱いた。
- ◆ 当初、酪農に参入するつもりはなかったが、家族旅行で度々訪れていた道東の中標津町に相談したことをきっかけに、「酪農家」になるイメージが強くなった。
- ◆ 研修生活に入り、当初心配していた体力面は夫婦共に働くことで克服できた一方で、想像していたような広大な土地でのんびりする牛に囲まれたスローライフではなく、生産現場の忙しさと生乳生産で疲弊する牛を目の当たりにし、自分たちが目指した生活とのズレを感じた。
- ◆ 牛も人も無理のない生活と経営を両立させる放牧酪農を知り、配合飼料や農薬、化学肥料を使用しない、自然のままの牛乳を搾ることを目指し2002年に新規就農を果たした。

【取組の成果】

- 2021年5月に有機JAS(有機飼料・有機畜産物・有機加工食品)認証を取得した。
- 配合飼料や農薬、化学肥料を一切使用せず、地球環境に優しい牧場経営を実践している。
- 自然の移ろいをより反映する放牧酪農にこだわって搾った牛乳は、北海道内のみならず全国各地で大人気となる。

【養老牛山本牧場W・E・Cの取組】

養老牛山本牧場W・E・C

配合飼料や農薬・化学肥料を使用せずに生産した牧草のみで育てた牛は、大量に生乳を搾乳することはできないため貴重な牛乳

コンテナを改装して牧場内にアンテナショップ「ミルクレーン」を開店。牛乳だけではなくソフトクリームやプリン、ジェラートも大人気

全国各地へ出荷

東京では牛乳宅配も行う直営店を運営。オンラインショップや催事等でも共感を得る

有機畜産へのこだわりが共感を集め、売上を伸ばす

販路拡大

【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 完全放牧は昼夜を問わず野外で牛を飼育するため、はじめは、牛が冬(-30℃近い)の寒さや環境に慣れず病気や事故にあうことも多かった。
- ⇒ 2年目以降は牛も徐々に寒さに慣れ、今では日本一丈夫な牛を飼っていると誇れるようになった。
- 通常の乳牛飼育では牧草のほか配合飼料も給与しており、牧草のみで飼育することが難しかった。
- ⇒ 徐々に配合飼料の給与量を減らすことで牛の体質が変化し、2010年に無配合(配合飼料を給与しない)飼育を行うことに成功した。
- オス牛が発情すると気性が荒くなり、人への攻撃で事故が起きることも多いことから、今では自然交配はほとんど行われなくなった。
- ⇒ 自家で出産したオス子を生まれた時から母牛と共同飼育することで、より穏やかな性格に育てることができ、自然交配へと切り替えることができた。また、母牛と子牛を離さず飼育することで、母牛の愛情たっぷりの、より美味しい牛乳になる決め手となった。

【今後の展望】

- 化学肥料や配合飼料を使う酪農ではなく、環境に優しく持続可能な農業の可能性について追及していきたい。
- 都会と田舎をつなぎ、田舎暮らしの魅力や農業の楽しさを発信することで、多くの若者が酪農業へ参入することや地域へ人が集まる懸け橋となりたい。